桶川発

# ことばで、紡ぐ。

## ～過去・現在・未来～

桶川市の市制施行55周年を記念して市ゆかりの作家・向坂くじらさん、桶川市遺族連合会会長の臼田智子さんに聞いた。２人に共通するのは、ことばで紡ぐこれまでと、これから―。

詩人・作家
「国語教室ことば舎」代表
## 向坂くじらさん

# 新たな世界を拓く詩人

「言葉と共に生きる人」。向坂くじらさんを一言で表すのならそんな表現が似合うだろう。小説が2作連続で芥川賞候補となり、詩集やエッセイの刊行、詩のワークショップなど幅広く活躍。さらに桶川市内で国語塾を運営し、地域に根差した活動も続けている。創作と教育の両面で、言葉に真摯に向き合う詩人だ。

結婚を機に桶川に移り住んで5年。「坂の多い地域に住んでいたので、どこまでも平らな中山道が新鮮。よく散歩するようになりました」と笑う。平坦な道は「歩きながら考える」習慣を生み、創作にも好影響を与えているのだとか。



「国語教室ことば舎」の「ば」は「かわいいから付けた」という。「詩から、簡単に理解することのできない現実をどれだけ考えられるか問われている気がします」

### 根付く覚悟

1994年、名古屋市生まれ、横浜市育ち。5歳で詩を書き始め、小学生のころから小説、高校時代には短歌も創作した。慶応大学卒業後、塾講師などの経験を経て「学びと表現の両方を合わせてできる場所があるべき」と痛感。2022年、小学4年から高校生を対象とした少人数制の国語塾を開設した。「根を張ろうと決めた場所。愛着があります」と覚悟を語る。

一軒家の中にある「国語教室ことば舎」には、向坂さんの蔵書約千冊が並び、生徒は自由に読むことができる。一斉授業ではなく、それぞれのレベルに合わせた「自学自習」形式がこだわりだ。「言葉は考える枠組みを作るもの。面白がってくれたらうれしいし、自分で学ぶ力を付けることを目指している」と未来を見据える。

### 言葉へのまなざし

2024年、デビュー小説がいきなり芥川賞候補、続く2作目「踊れ、愛より痛いほうへ」も芥川賞候補に挙がり、大きな注目を集めた。「踊れ～」について「『愛』と言っただけで良いもの、という前提が言葉に含まれている。愛が引き起こす問題を書きたかった」。向坂さんならではの、言葉の奥にある本質への問いかけが作品に生きている。

7月刊行の最新詩集「アイムホーム」では「家」をテーマに、「あじたま」「わき毛」といった身近なモチーフを独自の視点で捉え、新たな世界をみせてくれる。向坂さんは「文学の持つ力」についてこう語る。「文学や詩は、『当たり前』と信じ込んでいた世界を、違った角度から考えさせる。自分の当たり前は、他人と異なることに気づき、見えなかったものが見えるようになったりするところでしょうか」。

市制施行55周年の桶川市について尋ねると、「東京から絶妙な距離がいい。めちゃくちゃ盛り上がると（人が多くなりすぎて）困るので、今ぐらいをキープしてほしい。歴史ある桶川宿をもっと知りたい」とちゃめっ気たっぷりに答えた。地元やファンから期待を集める「桶川の星」。その輝きでこれからも新たな世界をみせてほしい。

ささきさか・くじら　名古屋市出身。慶応大文学部卒。「国語教室ことば舎」代表。著書に「とても小さな理解のための」「アイムホーム」（いずれも百万年書房）など。小説「いなくなくならなくならないで」「踊れ、愛より痛いほうへ」（いずれも河出書房新社）が芥川賞候補に。31歳。


「楽しい読書・面白い本のススメ」と題して開催されたトークショーに登壇する向坂さん（左）と百万年書房の北尾修一代表＝10月25日、イオンモール上尾

桶川発

# 平和をつなぐ「語り部」

2020年に開館した桶川飛行学校平和祈念館。太平洋戦争末期に特攻隊員らを送り出した「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」（桶川飛行学校）が復元整備され、平和の大切さを発信する施設となった。設立に尽力した臼田さんは「飛行学校がここにあったことを伝えていきたい」と語る。

### 父の遺書と母の悲しみ

80年前の1945年4月1日、桶川飛行学校の教官だった臼田さんの父、伍井芳夫大尉（享年32）は、第二十三振武隊長として鹿児島県の知覧飛行場から沖縄に向かって出撃した。その前日、書き残した言葉は「人生の総決算　何も謂ふこと無し」―。最後まで特攻隊員になったことを言わなかった父。「生身の体を武器に変えてしまった」との表現が痛ましい。

伍井大尉は愛する子どもたちに遺書を残した。臼田さんたち姉妹に「親愛ナル満智子智子ヨ　オ父サンハ大東亜戦争ノ勝利ノ為（中略）日本男子ノ最大ノ譽ヲ得テ立派ナ戦果ノ下ニ散リマス」。そして生まれたばかりの弟、芳則さんにも「成長ヲ見ズシテ去ルハ残念ナルモ悠久ノ大義ニ生キテ見守ッテイル」と。しかし弟は3カ月後に病死。「母の苦しみ、悲しみは相当のものだったはず。多くは語らなかったが戦争を憎んでいた」

母園子さんが小学校教諭になる準備のため、しばらくの間、坂戸市の母の実家に預けられた。桶川に戻ってきたのは小学校入学の時。「市が立っていて、にぎやかだった。祇園祭りや市民まつりなどが楽しかったのを覚えている」

### 語り部として生きる

飛行学校の建物が市営住宅「若宮寮」となって残っていることを知ったのは、03年に父の遺書などをまとめた「特攻隊長伍井芳夫」を上梓した後だった。「ここを残さなければ」と強く思った。元隊員の遺族や市民らとともにNPO法人旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会を立ち上げ、署名一万四千筆を集めた。「募金なんて呼び掛けたことがないので最初は声が出なかった。でも慣れてきたら追いかけてお願いした」とエピソードを思い出してほほ笑む。

会の働きかけが実り、市は国へ返還予定だった土地を購入、戦争遺構として保存することになった。祈念館に生まれ変わって5年。展示されている伍井大尉の遺書の前で来館者はみな足を止めて黙り込む。「桶川飛行学校」は父から娘につながる物語でもある。「戦争があってはいけないと伝え続けたい」

そして今、長男真一朗さんが思いを引き継ごうとしている。臼田さんの夫、満さんの後を継ぎ「関東食糧」の社長を務める真一朗さんは今年、同社55周年記念事業として特攻隊員を題材にした演劇「未来へつむぐ」桶川公演を実現した。語り部として生きる母智子さんに寄り添う。

うすだ・ともこ　1943年生まれ、桶川市出身。一般財団法人埼玉県遺族連合会副会長兼女性部長。桶川市遺族連合会会長。2010年、仲間とともに旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会を立ち上げ、20年まで代表を務めた。著書に「特攻隊長伍井芳夫～父と母の生きた時代～」。82歳。

桶川市遺族連合会会長
（公財）特攻隊戦没者慰霊顕彰会理事
## 臼田智子さん


旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場を復元整備した桶川飛行学校平和祈念館には5年間で約5万4千人が来場。「戦後80年は遺族会にとっては通過点」と臼田さん



桶川飛行学校で航空技術を指導する教官だった第二十三振武隊長伍井芳夫大尉（没後中佐）

祝 桶川市市制施行55周年
お客さまとともに発展成長する事務所をめざして

榎本総合会計事務所 所長 榎本 幸雄
桶川市坂田東 2-8-1　☎048-728-5011

中山道宿場館
「桶川宿」観光案内所
中山道の情報満載！旅のご休憩にもどうぞ。
入館無料　年末年始休館
午前9時～午後4時　☎048-778-3567


一般社団法人 桶川市観光協会
桶川市寿1-11-19 中山道宿場館2階 ☎048-776-8590

桶川市市制施行55周年おめでとうございます。


OKEGAWA hon プラス+
おかげさまでOKEGAWA hon プラス+も10周年。
桶川市民をはじめこの場所を訪れる全ての皆さまと、
まなびの楽しさ、知る喜び、繋がるやすらぎを
共に感じてまいりました。
これからもさまざまなプラス＋をお届けする場所で
ありたいと思います。
MARUZEN-YUSHODO
丸善雄松堂株式会社
〒104-0033 東京都中央区新川 1-28-23

桶川市 市制施行 55 周年おめでとうございます
新都市ライフホールディングスグループでは、地域の方々の子育て支援のため各企業の他、NPO法人や公共団体と協力しながら子育て環境の充実を図る取り組みを行っています。


パトリア桶川（おけがわマイン）
株式会社 新都市ライフホールディングス
〒163-1328　東京都新宿区西新宿六丁目5番1号　新宿アイランドタワー 28階